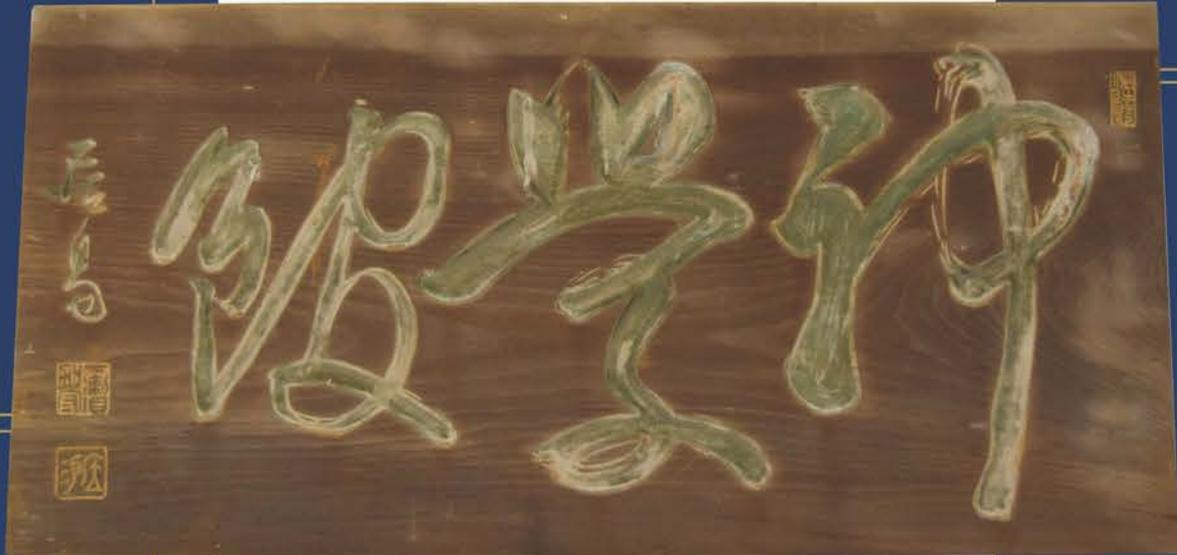


二〇二二年度西南学院大学博物館・西南学院史資料センター連携企画展
研究室訪問シリーズIV

学院史のなかの

神学部

成立と歩み、そして現在



History of the Faculty of Theology in Seinan Gakuin

ごあいさつ

西南学院大学博物館は、2006年の開館以来、本学の建学の精神であるキリスト教主義に則り、キリスト教文化に関する資料収集・調査研究・展示教育活動を行っています。私たちの使命は、博物館資料という具体的なモノをとおしてキリスト教文化の理解を深める教育活動を行うことであり、この使命に基づいて毎年キリスト教をテーマとするさまざまな展覧会を開催しています。

本展覧会は、2022年度の展覧会事業を締めくくる企画展であるのと同時に、2018年より始まった「研究室訪問シリーズ」の第4弾となります。研究室訪問シリーズは、西南学院大学の教員と博物館が連携し、教員の日頃の教育研究の成果を展示というかたちで学内外へ発信するものであり、今回は神学部の諸先生にご協力いただいております。本展覧会をとおして、100年以上の歴史を持つ神学部の歩みを知っていただけましたら幸甚です。

末筆ではございますが、本展覧会の開催にあたって、本学博物館にご理解・ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

西南学院大学博物館館長
伊藤慎二

西南学院史資料センターは創立者C. K. ドージャーをはじめ学院及びバプテスト教会に関する史資料の収集・保存及び調査・研究を行うことによって、学院の歴史を理解・継承し、建学の精神の涵養を図ることを目的としています。本センターは、2023年5月に西南学院バプテスト資料室を開室することに伴い、今回大学博物館と共同で神学部に関する企画展を開催する運びとなりました。西南学院大学神学部の原点は、1916年の学院創立から遡ること9年、1907年に設立された福岡バプテスト神学校に求めることができます。本企画展を通して、西南学院の精神とも言える神学部の歴史に対する関心と理解を深めて頂けましたら幸いです。

西南学院史資料センター長
今井尚生

ごあいさつ

この度は「学院史のなかの神学部」の開催、ご来館、ありがとうございます。

西南学院大学神学部は前身の福岡バプテスト神学校から数えれば今年 116 年で、西南学院より長い歴史を持ちます。ただその間、戦争などの理由から中断した時期もあり、その歩みは平坦ではありません。「西南よ、キリストに忠実なれ」という西南学院の建学の精神に直接、間接に神学部は関わりつつ、今もその歩みを続けています。

以前、私が担当した「西南学院史」の授業で戦時中の西南学院が学徒動員等、戦争に協力してキリスト教学校としての存続を図った歴史を扱った際に、ある学生が「戦争に協力せずに一度解散していたら、西南学院は西南学院としてキリストに忠実であり続けられたのに」とのコメントをしてくれ、はっとしたことがあります。思えばその時期、神学部は閉鎖されており、中断することで継続されるものもあるのかと思いました。

しかし戦時下において神学部に関わっていた人々の責任が問われないとは言えませんし、それ以外の歴史においても神学部が必ずしも完璧にキリストに忠実に歩んできたとも言えません。例えば、今回触れられている 70 年代の「神学校問題」の原因や、触れられていないものの重要な、伝道者を志す女性の学生に神学部で学び牧師になるのではなく児童教育学科で学び「牧師夫人」になるよう勧めたといった歴史（日本バプテスト連盟「いわゆる『牧師夫人』に関する見解」2013、参照）など、様々な課題、問題がありました。

現在も「神学部」という日本では珍しい、それもとてつと小さな学部が、西南学院大学にあることの意味をこの展示会を通して考えさせられます。その意味を、展示をご覧になった皆様を感じ取って下さるならばこれ以上に幸いなことはありません。神学部はこれからも、「今日、キリストに忠実であるとはどういうことか」を問い、問われつつ、その西南学院と共なる歴史を通して神が学生たちに、そしてこの世界に何事か働きかけてくれることを祈っております。

末筆ながら企画、実施して下さった西南学院大学博物館ならびに西南学院史資料センターの皆様にご心より感謝いたします。

西南学院大学神学部長
濱野道雄

開催概要

西南学院大学神学部の源流は、学院創立の1916（大正5）年よりも以前、1907（明治40）年の福岡バプテスト神学校の設立に求めることができる。設立以来、神学部は大名、西新、干隈とキャンパス移転を繰り返し、2023（令和5）年現在は西新キャンパスで他の学部と共に教育・研究の日々を過ごしている。100年以上にわたるこの長い歴史の中で、多くの問題に直面しながら、神学部は教会や教育の現場でキリスト教について語る人々を育て世に送り出してきた。本展覧会では、その歴史の一端と現在の神学部教育について、さまざまな資料と共に紹介する。

会期 2023年3月1日（水）～5月22日（月）
会場 西南学院大学博物館 1階常設展示室
主催 西南学院大学博物館 西南学院史資料センター
協力 西南学院大学神学部 西南学院大学図書館

目次

ごあいさつ

開催概要／目次／凡例 2

第1章 神学部の成立と歩み 3

コラム 神学科の分離と復活 西南学院史資料センターアーキビスト 宮川由衣 16

第2章 現在の神学部教育 17

コラム 関谷コレクション 西南学院大学博物館学芸調査員 栗田りな
西南学院大学博物館教員 下園知弥 23

解説 キリスト教人文学コースの記憶 西南学院大学博物館教員 下園知弥 24

出品目録

凡例

- ◎本図録は2022年度西南学院大学博物館・西南学院史資料センター連携企画展／研究室訪問シリーズⅣ「学院史のなかの神学部—成立と歩み、そして現在—」[会期：2023年3月1日（水）～5月22日（月）]の開催にあたり作成したものである。
- ◎図録の資料番号は、展示順番とは必ずしも一致しない。
- ◎各資料には、資料名のほか、資料情報として[制作・出版年／制作・出版地／制作者・出版社／素材・形態／所蔵]を記載した（法量は巻末の出品目録にのみ記載）。また、資料解説には、末尾に執筆者名を記した。
- ◎各写真には、写真名および[撮影年／所蔵]の情報を記載した。
- ◎本図録の編集は下園知弥（西南学院大学博物館教員）、宮川由衣（西南学院史資料センターアーキビスト）がおこなった。また、編集補助には、栗田りな（西南学院大学博物館学芸調査員）、原田仰（西南学院史資料センター臨時職員）があたった。
- ◎本図録に掲載している写真は各所蔵先の許可なく転載・複製することは認めない。

第1章

神学部の成立と歩み

1907（明治40）年に福岡県大名町に建てられた「福岡バプテスト神学校」を前身とする西南学院大学神学部は、2001（平成13）年に現在の西新キャンパスへ移転するまで、多くの校地を渡り歩いてきた。本章では、福岡バプテスト神学校の成立から現在の西新キャンパス移転までの歴史を、学院史資料と写真によって振り返る。



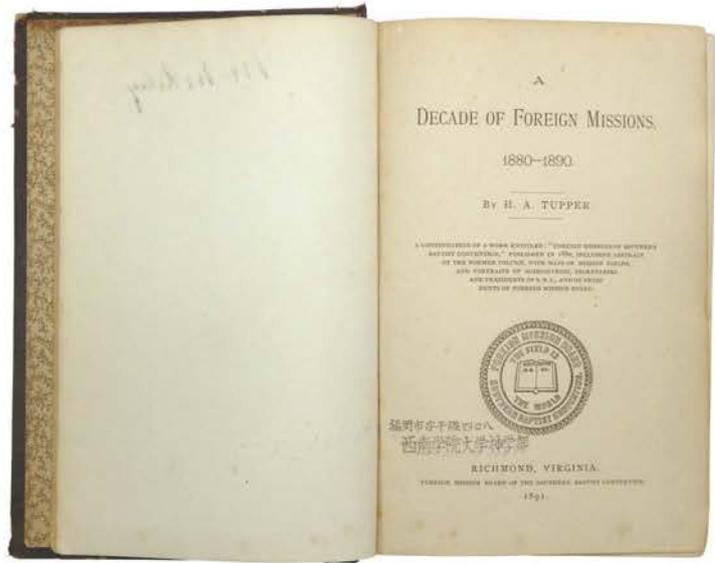
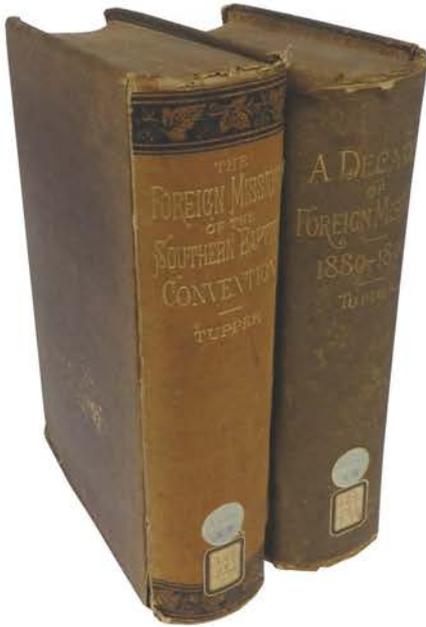
大名町の福岡バプテスト神学校校舎

1908（明治41）年／西南学院史資料センター

堀の手前側は福岡城。左手奥側に見えるのが1908（明治41）年に建てられた福岡バプテスト神学校校舎。

福岡バプテスト神学校

西南学院の母胎であるアメリカの南部バプテスト派は、1892（明治25）年より九州伝道を開始し、九州各地に多くの教会を建てていった。それに伴って日本人伝道者を育成する機関の必要性が高まり、在日宣教師たちの要請によって1907（明治40）年に福岡市大名町96番地の宣教師館で設立されたのが「福岡バプテスト神学校」である。その後、同神学校は翌1908（明治41）年に大名町105番地へ校舎を建てて移転するも、東京に日本バプテスト神学校が設立されることが決まったため、そこに併合されるかたちで1910（明治43）年に閉鎖した。しかしその後、宣教師たちの尽力によって1911（明治44）年に大名町の元神学校校舎に福岡バプテスト夜学校が設立、さらには同学校が1916（大正5）年に私立西南学院へと発展、1923（大正12）年には同学院に高等学部神学科が設置されたことで、福岡バプテスト神学校は今日の西南学院大学神学部のルーツとなった。



資料 1-2 標題紙

資料 1-1. (左)

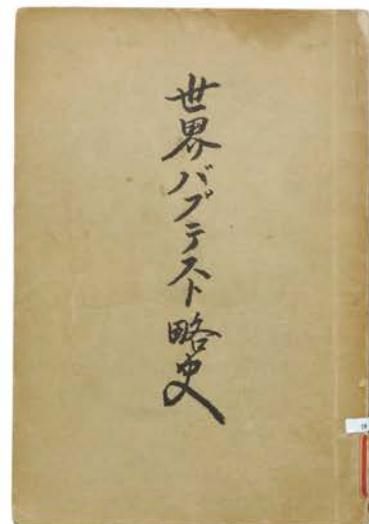
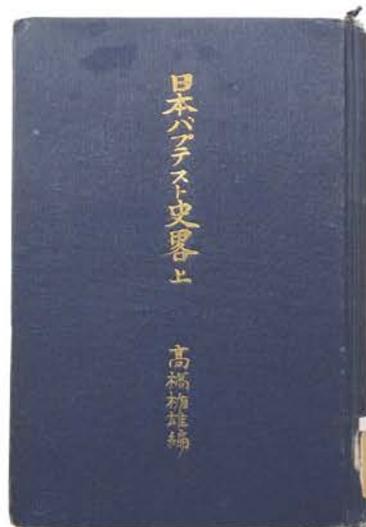
H. A. Tupper, *The Foreign Missions of Southern Baptist Convention*

1880 年 / ヴァージニア / Foreign Mission Board of the Southern Baptist Convention / 書冊 / 西南学院大学図書館 (ドージャー文庫)

資料 1-2. (右)

H. A. Tupper, *A Decade of Foreign Missions 1880-1890*

1891 年 / ヴァージニア / Foreign Mission Board of the Southern Baptist Convention / 書冊 / 西南学院大学図書館 (ドージャー文庫)



資料 1-3.

高橋楯雄編『日本バプテスト史略』(上・下)

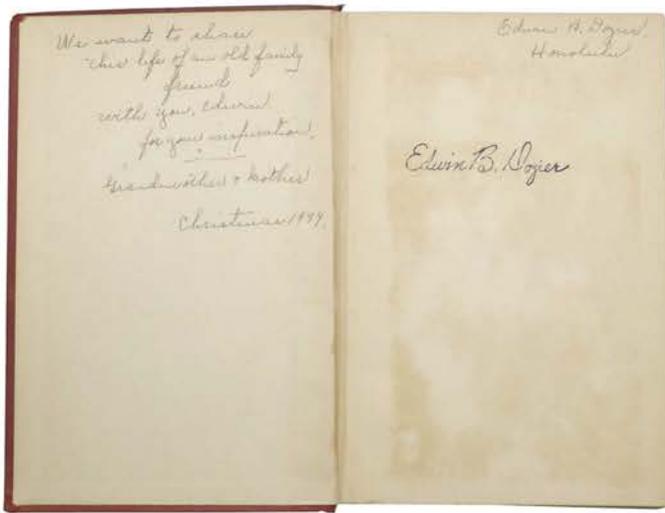
上巻: 1923 (大正 12)、下巻: 28 (昭和 3) 年 / 東京 / 東京三崎会館
書冊 (全 2 巻) / 西南学院大学図書館

資料 1-4.

千葉勇五郎『世界バプテスト略史』

1932 (昭和 7) 年 / 東京 / 東京新生館 / 書冊
西南学院大学図書館

資料 1-1 から 1-4 はいずれもバプテスト派の海外伝道史を知るための重要文献である。資料 1-1 および 1-2 の著者タッパー (Henry Allen Tupper) は南部バプテスト連盟国外伝道局 (Foreign Mission Board) の主事、海外宣教部門のトップであった。資料 1-3 の編者高橋楯雄は西南学院高等学部神学科の教授を務めており、資料 1-4 の著者千葉勇五郎は福岡バプテスト神学校の校長を務めていたため、共に西南学院の神学教育の関係者である。(下園)



資料 1-5.

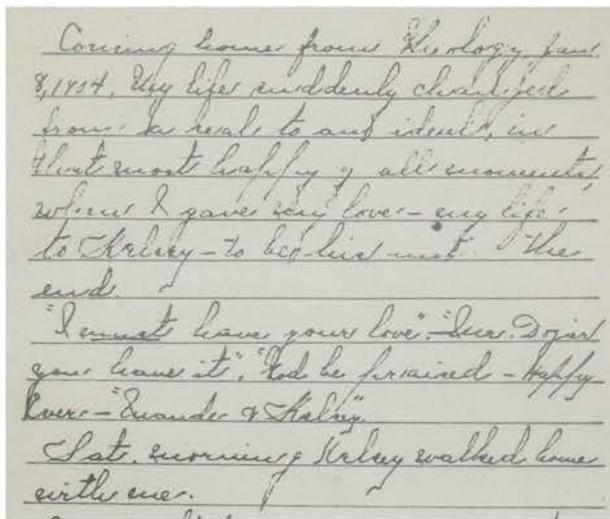
Everett Gill, *A. T. Robertson: A Biography*

1943年/ニューヨーク/Macmillan/書冊/須藤伊知郎

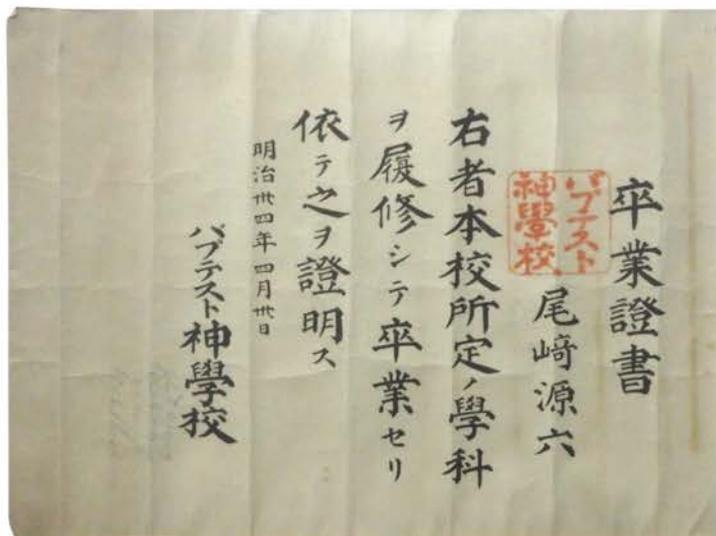
A・T・ロバートソン(1863-1934)は米国南部バプテスト神学校で新約聖書とギリシア語を講じた人物で、その文法書は現代もお参照されている。これはE・ジルによるその伝記で、後に西南学院大学神学部教授、第9代西南学院院長となるエドウィン・B・ドージャー(1908-1969)に祖母アデリア・パークと母モード・A・パークからクリスマスプレゼントとして贈られたものである。

左頁には「私たちはこの私たち家族の古い友人の伝記をあなたと分かち合いたいと思います、エドワード、あなたの訓育のために。/祖母と母/1944年クリスマス」とある。筆跡は西南学院史資料センターに所蔵されている文書コピーのものと一致している(参考資料)。右頁上のサインの下には「 Honolulu」とあり、E・B・ドージャーが大学の前身である高等学部英文科長、聖書担当教授の職を失い、戦時中ハワイに一時帰国していた時期に受け取ったことが分かる。

このロバートソンの伝記は世界バプテスト連盟女性部副会長、アジアバプテスト連盟女性連合会長、日本バプテスト連盟婦人連合会長を務めた松村あき子(1917-2006)の遺品の中にあつたものである。ロバートソンの弟子の一人がE・B・ドージャーの同僚で、西南学院第5代、第11代院長、大学初代学長、神学部教授を務めたウィリアム・M・ギャロット(1910-1974)であり、ギャロットは、その愛弟子であつた松村あき子が翻訳した『新約聖書(平明訳)』角川書店、1999年を監修している。(須藤)



参考資料



資料 1-6.

バプテスト神学校卒業証書

1901(明治34)年/横浜か/バプテスト神学校/紙 西南学院史資料センター

本卒業証書は、1884(明治17)年に日本で最初に設立されたバプテスト神学校である「横浜バプテスト神学校」の卒業証書である。横浜バプテスト神学校は1910(明治43)年に福岡バプテスト神学校と共に東京の日本バプテスト神学校へと統合された。本証書の左側余白には神学校校長パーシュレー(W. B. Parshley)らのサインが記されている。(下園)

バプテスト：西南学院のルーツ

今日アメリカにおけるプロテスタント最大教派にまで発展しているバプテスト教会は、17世紀イングランドにその起源を求めることができる。ジェネラル・バプテストとパティキュラー・バプテストという二つの潮流をもつイングランドのバプテスト教会は、アメリカで発展し、その草創期には南北の垣根を越えて伝道活動を行なった。しかし奴隷制度の可否を巡って南北の教会の対立が深まり、1845年に南部バプテスト連盟が創設されると、南北バプテストの協力体制は終わりを迎えた。

その後、北部バプテストと南部バプテストはそれぞれ日本伝道を開始し、北部ミッションによって関東学院や捜真女学校などが、南部ミッションによって西南学院や西南女学院などが設立された。また、北部・南部合同の神学校として1910（明治43）年に日本バプテスト神学校（3頁参照）が設立されたが、教育観や他教派の受け入れについての見解の相違から1918（大正7）年に南部ミッションが協同を打ち切ったことにより合同は解消、その後同神学校は関東学院となり、南部ミッションの神学教育は1923（大正12）年より西南学院が担うこととなった。

参考文献 バプテスト史教科書編纂委員会編『見えてくる バプテストの歴史』関東学院出版会、2011年

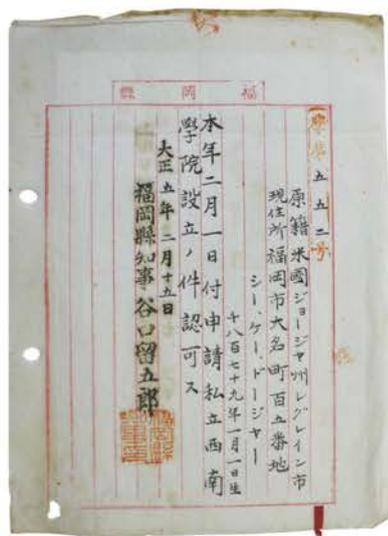


西南学院創業者 C. K. ドージャーら 戸山ヶ原にて

1913（大正2）年頃／西南学院史資料センター

左から高橋楯雄、C.K. ドージャー、J.H. ロウ、G.W. ボールデン。

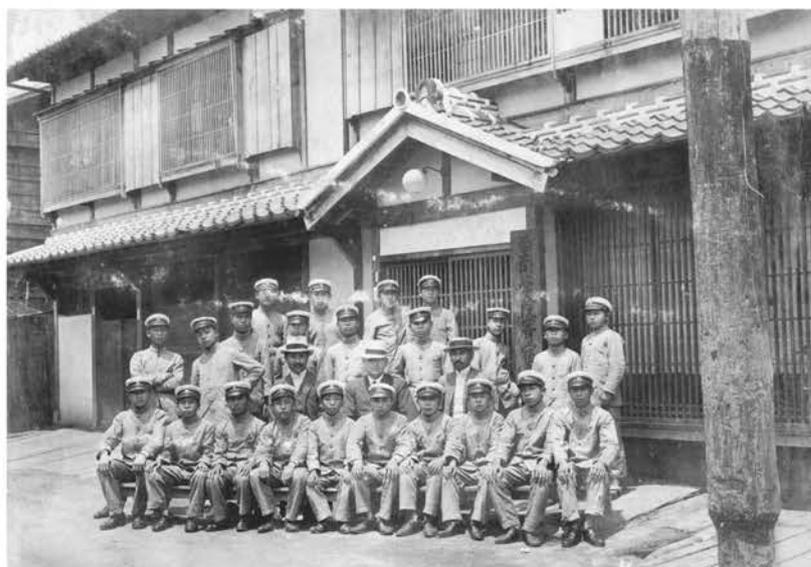
高橋を除く3名はアメリカから派遣された南部バプテストの宣教師であり、サザンバプテスト神学校の同期生であった。高橋楯雄も同神学校に留学し、ドージャー、ロウ、ボールデンと同じ年に卒業している。彼らは1906（明治39）年より来日して日本伝道に従事し、日本人教育者と共に西南学院・西南女学院の発展に尽くした。



資料 1-7.

私立西南学院設立認可書

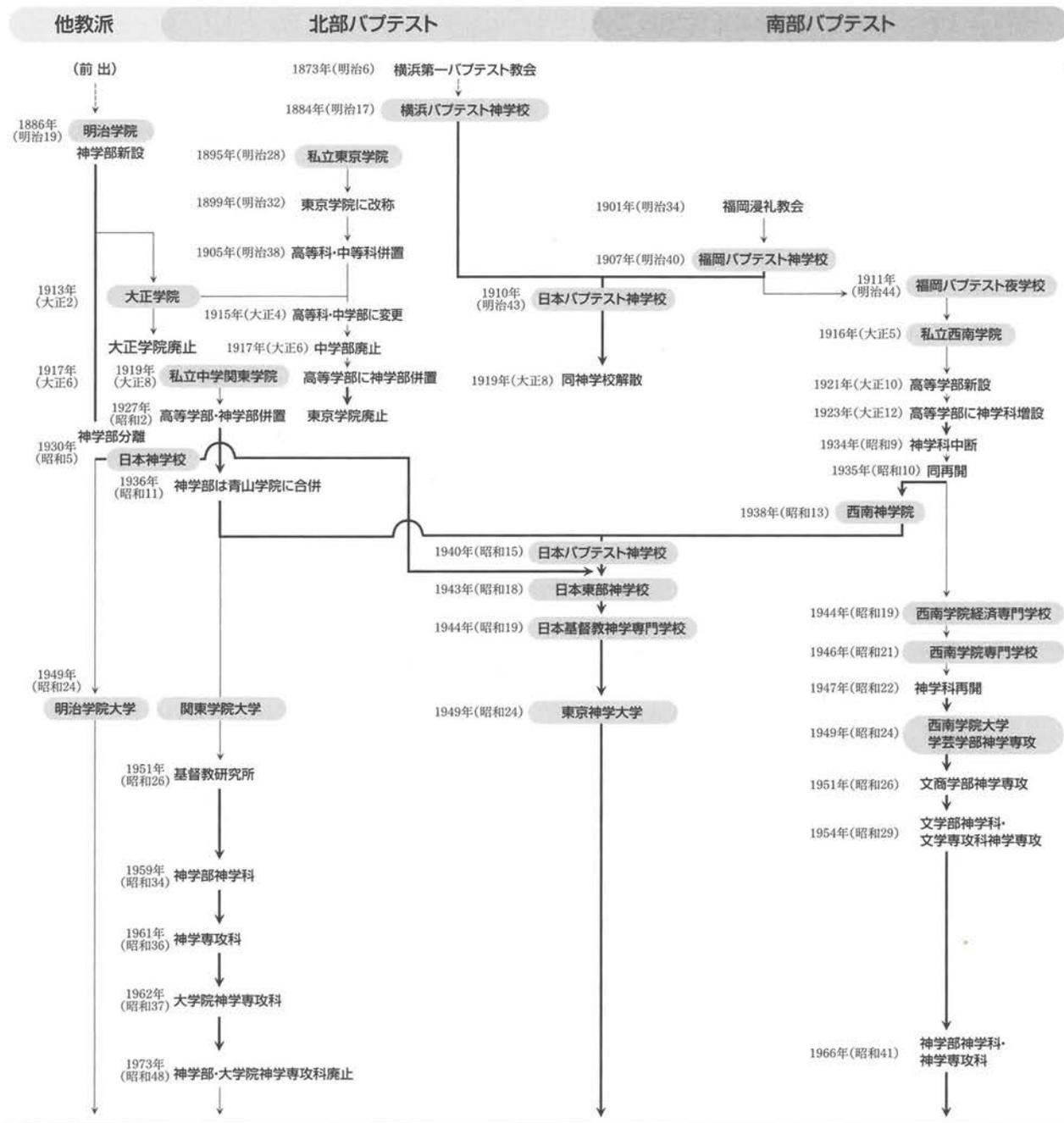
1916（大正5）年／福岡／福岡県／紙
西南学院史資料センター



西南学院開校当時の寄宿舎生

1916（大正5）年／西南学院史資料センター
中央には寄宿舎生たちに囲まれたC.K. ドージャーの姿が見える。

バプテスト神学校関連図



本図は神学部建学100周年記念誌編集委員会『神学部建学100周年を祝う—Another Centuryに向けて—』（西南学院大学神学部、2008年）10頁より、神学部の許可を得て転載した。

大名から西新へ

1918（大正8）年より大名町から西新町へと移転した西南学院は、日曜日問題や戦時体制といった苦難を経験しつつも、順調に発展を遂げていった。神学部（当時の高等学部神学科）もまた、一時休校や学院からの分離などの苦難を被った時期もあったが、戦後には西南聖書神学校（1946年）、西南学院専門学校神学科（1947年）、西南学院大学学芸学部神学専攻（1949年）へと改称・改組しつつ、その系譜は脈々と受け継がれていった。



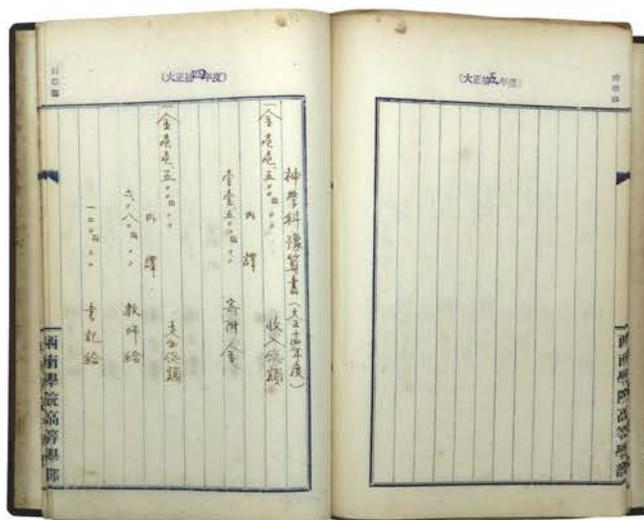
西新校地に移築された旧神学校校舎・神学科校舎

1918（大正8）年／西南学院史資料センター
現在もキャンパスのシンボルとなっている黒松に囲まれた海岸に近い一画が新たな校地として購入された。



1921年完成当初の本館

1921（大正10）年／西南学院史資料センター
この建物は西南学院大学博物館（ドージャー記念館）として現存しており、福岡県指定有形文化財に指定されている。



資料 1-8.

神学部予算書（大正12～昭和10年度）

1923（大正12）-1935（昭和10）年／福岡／西南学院／冊子／西南学院史資料センター

本予算書には1923（大正12）年の高等学部神学科創設から1935（昭和10）年までの神学部（神学科）予算が記載されている。神学科は1934（昭和9）年4月に財政難のため一時休校となっているため、昭和10年度の予算はおそらく執行されておらず、本予算書もその年で途切れている。（下図）

1

原書 書名	著者	漢字著者名	原書 題名	原書 題名	出版年月日	出版地	発行所	代 価	券 部	巻 部	大 小	表 紙	校 数	刷 数	受 入 光	備 考
1	新新の福音				1906	U.S.A.	Wiley	0.50	1							
2	聖書の福音	A.S.D.			1906	U.S.A.	Wiley	0.50	2							
3	A History of the English	Stevens & Burtin			1904	U.S.A.	Wiley	0.50	3							
4	A History of the English	J.G. Burrows			1904	U.S.A.	Wiley	0.50	4							
5	Why is King's name?	E. H. Mullins			1900	U.S.A.	Wiley	1.50	1							
6	Handbook of New Testament	A. E. Garvie			1917	U.S.A.	Wiley	1.75	1							
7	Secrets of Sunday School Teaching	Shandling Hall			1912	U.S.A.	Wiley	2.40	1							
8	The Bible and the Teacher	L. A. Wright			1914	U.S.A.	Wiley	1.25	2							
9	A Handbook of Exegetical	L. P. Knobel			1917	U.S.A.	Wiley	6.00	3							
10	Methods and Principles	T. W. Canfield			1920	U.S.A.	Wiley	1.00	4							
11	The Jerusalem - What stand at the	M. J. Ballou			1922	U.S.A.	Wiley	6.00	5							
12	Plans & Progress	A. L. Williams			1915	U.S.A.	Wiley	6.00	6							
13	Our Building of the History of	E. C. Moore			1916	U.S.A.	Wiley	1.10	1							
14	The Philosophy of the Christian Religion	A. M. Davidson			1912	U.S.A.	Wiley	1.10	2							
15	The Christian Religion - A	E. J. Mullins			1913	U.S.A.	Wiley	1.20	3							
16	Freedom & Authority in Religion	E. J. Mullins			1913	U.S.A.	Wiley	1.10	3							
17	The History of the Old Testament	A. B. Davidson			1908	U.S.A.	Wiley	1.30	1							
18	Theology of the Old Testament	C. H. Dyer			1918	U.S.A.	Wiley	1.30	2							
19	The Apocrypha					U.S.A.	Wiley	0.50	5							
20	Infant Baptism	W. J. Whiston			1916	U.S.A.	Wiley	7.00	2							
21	Baptist Commitment Book	W. J. Whiston			1911	U.S.A.	Wiley	2.50	2							
22	Modern Church Finance	A. T. McGarvey				U.S.A.	Wiley	1.75	3							
23	Ministry in the Plan of the	W. J. Whiston			1917	U.S.A.	Wiley	1.50	2							
24	Let the Word in all the World	W. J. Whiston			1917	U.S.A.	Wiley	6.00	2							
25	The Spread of Christianity in the	E. C. Moore			1921	U.S.A.	Wiley	2.25	3							
26	Let the Word in all the World	L. R. Scarborough			1917	U.S.A.	Wiley	1.50	2							
27	A Vital Ministry	W. J. Whiston			1913	U.S.A.	Wiley	1.00	2							
28	Making Good in the Ministry	A. T. McGarvey			1911	U.S.A.	Wiley	1.75	2							
29	The Bible Teaching - A	E. C. Moore			1912	U.S.A.	Wiley	2.50	2							
30	Vital Elements of Preaching	Arthur S. Hoyt			1917	U.S.A.	Wiley	2.00	2							
31	A History of Preaching, Vol. I.	E. C. Moore			1905	U.S.A.	Wiley	2.50	3							
32	Preparation & Delivery of Sermons	J. A. Broadus			1894	U.S.A.	Wiley	2.50	3							
33	A History of Preaching, Vol. II.	E. C. Moore			1912	U.S.A.	Wiley	3.00	3							

資料 1-9. (上)
神学部図書原簿

1923 (大正 12) - 1934 (昭和 9) 年 / 福岡 / 西南学院 / 書冊
西南学院史資料センター

高等学部神学科創設から神学科一時休校までの期間の神学部 (神学科) 蔵書を記した原簿。当時から国内のみならず欧米の神学書も充実していたことがわかる。(下図)

資料 1-10. (下)
神学生募集ポスター

1935 (昭和 10) 年 / 福岡 / 西南学院 / 紙
西南学院史資料センター

財政難により 1934 (昭和 9) 年 4 月より一時休校していた神学科は翌年 4 月に再開することになったが、再開に際して女子部設立の要望が上がっていた。そのため本ポスターには「女子部」の記載があり、実際に 4 名の女子神学生が入学したが、学部規則に規定されていない女子部は文部省から認可されず、1936 (昭和 11) 年 4 月より「西南女子神学校」に改称して存続することとなった。同校の女子教育は 1940 (昭和 15) 年に西南保母学院に組み込まれ、西南学院大学人間科学部児童教育学科の母胎となっている。(下図)

申込 四月限

始業 四月八日



神学生募集

男子部 本科 各若干名

女子部 若干名

外に 聴講生の制もあり
補助の特典もあり

詳細は規則書照合

福岡市地行西町四番十二九八
西南学院高等学部神学科
電話一三七八番

西新から干隈へ

西南学院は1937（昭和12）年に中学部、高等学部につき、干隈地区に大学を建てる計画「西南学院バプテスト大学構想」を明らかにした。以降2年間にわたって干隈に校地を取得する。しかし、戦争の影響による国際関係の悪化のため、敷地の取得にとどまり、この構想は実現には至らなかった。戦後、干隈には西新から神学科が移転した。1951年（昭和26）年10月に神学寮、続いて1955（昭和30）年7月に神学科校舎（神学館）が完成した。そして、1966（昭和41）年に大学文学部神学科が廃止され、神学部神学科および神学専攻科が設置された。



干隈キャンパス神学館玄関（絵はがき）

1955（昭和30）年／西南学院史資料センター



干隈キャンパス神学寮献堂式

1951（昭和26）年／西南学院史資料センター



資料 1-11.

神学館の表札

1955（昭和30）年／福岡／下瀬加守／木製／西南学院史資料センター

1955（昭和30）年7月に完成した神学科校舎の玄関には「神学館」の表札が掲げられていた。神学科の近藤定次教授の依頼により、元神学科科長で当時引退して大牟田に住んでいた下瀬加守（雅号：居易）が揮毫したものである。（宮川）

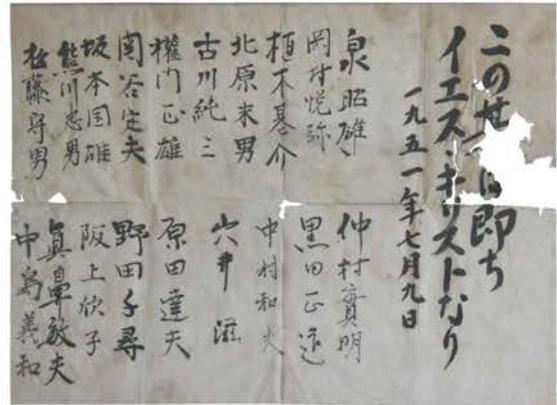
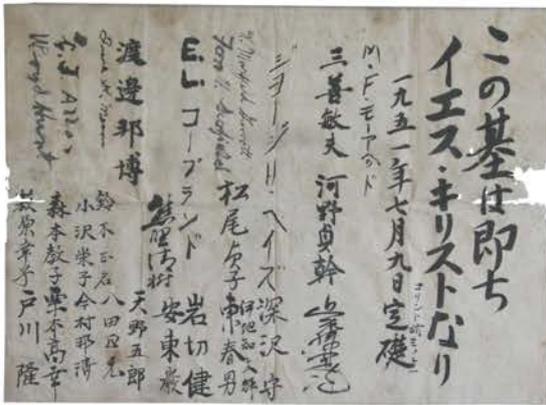
干隈時代の記録



干隈キャンパス神学部校舎
1990年頃／西南学院史資料センター



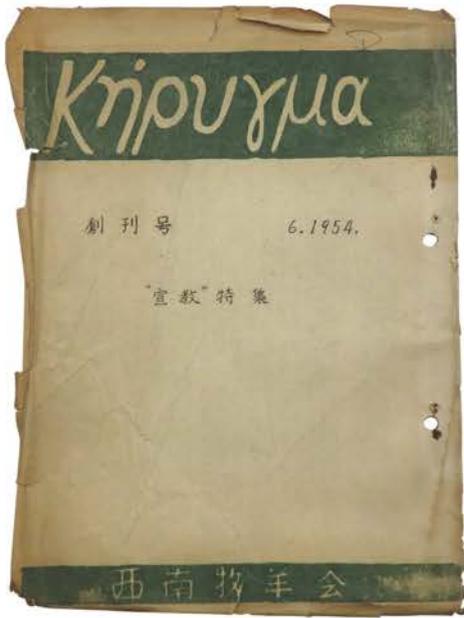
干隈神学寮建築の際に埋められた定礎箱に入っていたもの
1951（昭和26）年／西南学院史資料センター



神学寮の定礎箱に入っていた当時の神学部教員・学生の寄せ書き
1951（昭和26）年／西南学院史資料センター



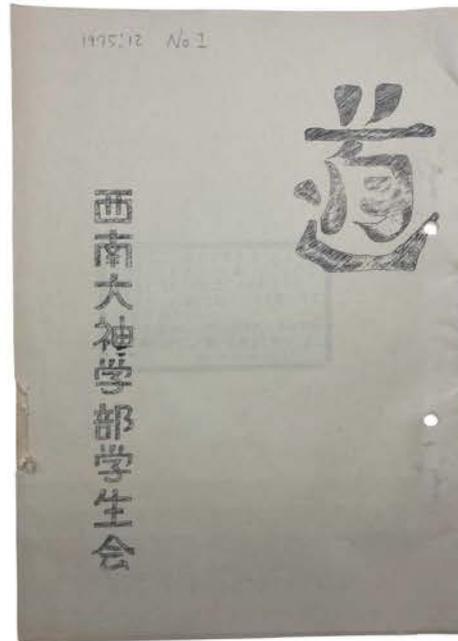
神学部チャペル風景
撮影年不詳／西南学院史資料センター



資料 1-12.
『ケリグマ』創刊号

1954 (昭和 29) 年 / 福岡 / 西南牧羊会 / 小冊子
西南学院史資料センター

本資料は「神より委託された『神の言』を如何に宣教していくか」というテーマに基づいて発行された『ケリグマ』という機関紙である。当時の神学科学学生の有志による「西南牧羊会」によって作成された。1966 (昭和 41) 年には新たな機関誌『コイノニア』が刊行されているが、その編集後記に『ケリグマ』の主旨が新たな機関誌の主旨と合致しなかったために引き継がれなかったことが記されている。(原田)



資料 1-13.
『道』創刊号

1975 (昭和 50) 年 / 福岡 / 西南大神学部学生会 / 小冊子
西南学院史資料センター

『道』は神学部学生会が年に 1 回発行している証文集である。学生の日々の関心事や研修の報告などが記事として掲載されており、日本バプテスト連盟の諸教会、及び伝道所に刊行している。本資料は 1975 (昭和 50) 年に作成された創刊号であり、そのあとがきにはその年に行われた 1 泊修養会が『道』作成のきっかけになったことが記されている。現在でも発行され続けている。(原田)



部分拡大図
教室黒板に貼られたピラ

資料 1-14.
神学校問題の証拠スクラップ

1969 (昭和 44) - 1971 (昭和 46) 年 / 福岡 / 西南学院
スクラップブック / 西南学院史資料センター

1960 年代後半から 70 年代にかけて全国的に広まった大学紛争は、西南学院大学にも波及し、「法学部新設反対運動」などさまざまな活動がおこなわれた。西新キャンパスから離れていた千隈キャンパスにおいては、西南学院と日本バプテスト連盟によって協同で経営されている神学部の在り方をめぐる問題 (いわゆる「神学校問題」) で、神学部学生自治会によるストライキなどが実施された。本図録掲載箇所には、大学紛争中に神学部看板などに貼られていた批判ピラを撮影した写真が貼られている。(下園)

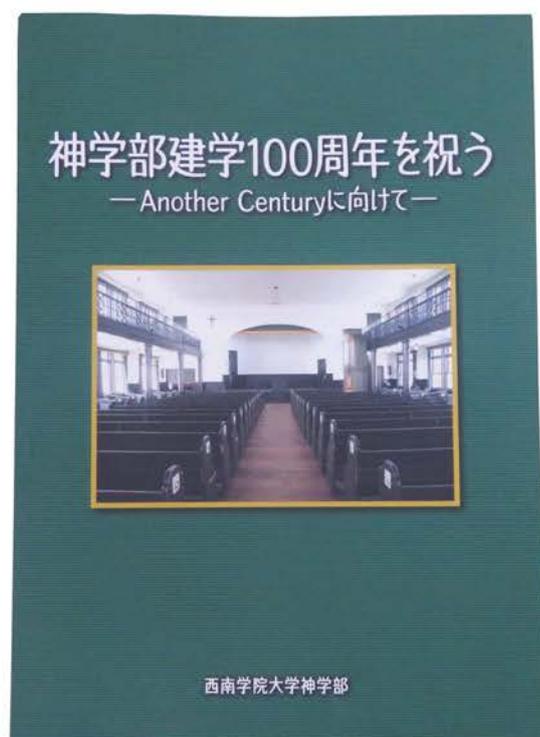
再び西新へ

1980年代より交渉が行われてきた千隈校地の売却が1999（平成11）年に承認されたのち、大学神学部は再び西新キャンパスへと戻ってくることとなった。これに伴い神学部図書館の大学図書館への併合、神学部研究室の学術研究所への併合、新神学寮の建設、神学部チャペルの開催地変更などがおこなわれ、移転が完了したのは2001（平成13）年3月のことであった。以後、現在に至るまで、西南学院大学神学部は西新キャンパスで教育・研究の日々を過ごしている。



現在の神学寮（2023年 編者撮影）

千隈キャンパスから西新キャンパスへの移転に伴い、2001（平成13）年福岡市室見に新設された神学寮。



資料 1-15. (上)

西南学院大学神学部移転記念誌

千隈から西新へ 想起と展望

2000（平成12）年／福岡／西南学院大学神学部移転記念祭実行委員会
小冊子／西南学院史資料センター

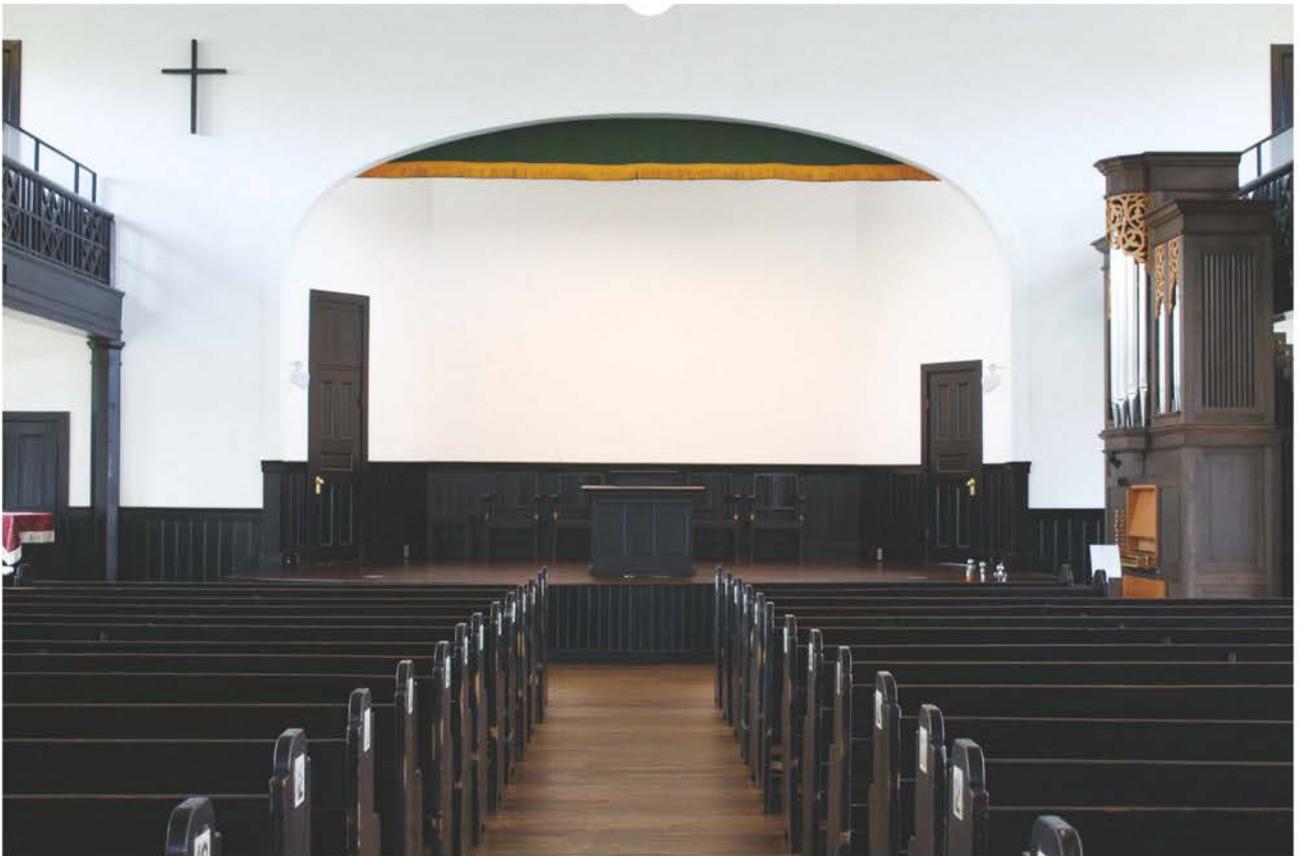
資料 1-16. (下)

神学部建学100周年を祝う

—Another Century に向けて—

2008（平成20）年／福岡／西南学院大学神学部／小冊子
西南学院史資料センター

資料 1-15 および 1-16 は、「神学部の西新キャンパス移転」「福岡バプテスト神学校から起算しての100周年」をそれぞれ記念して刊行された記念誌であり、長い歴史を持つ神学部の記録と記憶を辿るうえで重要な資料となっている。（下図）



西南学院大学博物館（ドージャー記念館）2階講堂

2016（平成28）年頃／西南学院大学博物館

大学博物館と神学部チャペル

西南学院旧本館（8頁参照）を修築して2006（平成18）5月に開館した西南学院大学博物館（ドージャー記念館）の建物は、現存する西南学院最古の建築物として大学のシンボルになっているが、現在の神学部にとっても非常に重要な場所である。

パイプオルガンが設置されている大学博物館2階講堂は神学部チャペルの会場となっており、全学チャペルとは別に、月曜午前11時から正午までの時間帯にチャペルがおこなわれている（2007年～2021年）。この神学部チャペルは1988（昭和63）年より導入された2コース体制（「神学コース」と「キリスト教人文学コース」）の垣根を超えて神学部の学生・教員たちが共に祈る場として機能している。また、講堂のバルコニー上に掲げられた十字架（右図）は、干隈にあった神学部チャペルの梁から作られたものであり、干隈時代からの神学部チャペルの伝統を証するシンボルとなっている。

2023（令和5）年現在、残念ながらこの講堂は耐震補強工事の準備のため使用が禁じられているが、工事が完了した暁には、再びチャペルの場として活用されることが期待される。



大学博物館の十字架
（2022年 編者撮影）

神学部略年表

Ⅰ. 建学	
1907年 10月	福岡バプテスト神学校開設 開校式が西公園の鐘美亭で行われる
1908年	福岡市大名町105に2545坪を購入 神学校校舎75坪、校長館40坪竣工
1909年 5月	東京・神田三崎町バプテスト中央会館で第10回日本浸礼教会 総会が開催され、南北両神学校の合併が決議される
1910年 5月	第8回西南部会総会に於て「南北神学校合併問題無期延期の 件」が可決される 福岡バプテスト神学校第1回卒業式 横浜バプテスト神学校と合併し、日本バプテスト神学校となる 福岡バプテスト神学校閉鎖
1911年 5月	神学校移転跡に「福岡バプテスト夜学校」開設 C.K. ドージャー、夜学校校長となる
1916年 2月	西南学院、男子中学として創設される 創設者・C.K. ドージャー、院長・條猪之彦
1917年 11月	福岡バプテスト夜学校廃止 C.K. ドージャー、夜学校校長辞任
1918年	西部組合独自の伝道者養成機関の設置が検討される
1919年	日本バプテスト神学校解散
1921年	西南学院、高等学部設置
Ⅱ. 西新にて	
1922年 12月	宣教師会、西南学院高等部に神学科の開設を認める
1923年 4月 6月	神学科開設、授業開始 神学科教室（第二校舎）及び寄宿舎移転
1926年 3月 6月	G.W. ボールドン、神学科長の辞表提出 G.W. ボールドン、神学科長再任条件付きで神学科自治が認めら れる
1934年 4月	高等学部神学科中断
1935年 4月	高等学部神学科再開、同時に女子部開設（無認可）
1936年 4月	高等学部神学科女子部を西南女子神学校と改称
1937年	干隈に土地取得（以降2年間にわたって校地取得）
1938年 4月	高等学部神学科を西南神学院と改称、西南学院の組織から独 立させる
1939年 12月	西南学院理事会、神学科の廃止を決議
1940年 4月 10月	西南女子神学校を西南女子神学塾と改称 東西両組合の合同に伴い、日本バプテスト神学校開設（東京・ 田園調布）、校長・千葉勇五郎
1942年 3月	日本バプテスト神学校閉鎖
1946年 4月	西南聖書神学校生徒募集、十数名が応募
1947年 4月	西南学院専門部に神学科を開設 科長・河野貞幹
1949年 4月 7月	西南学院大学開設、神学科は学芸学部神学専攻となる 連盟臨時総会で、神学校デー、奨学金制度が討議される
1951年 4月 10月	西南学院大学文商学部神学専攻に改称 干隈校地に第一神学寮竣工
Ⅲ. 干隈にて	
1954年 3月 4月	（旧学制）西南学院専門部を全て廃止 文商学部を文学部（神学科、英文学科）と商学部に分離 文学部神学科に専攻科開設
9月 11月	大学文学部神学科、通信教育開始 神学科、大学院設置申請するも見送りとなる
1955年 7月	干隈校地に神学科本館竣工
1956年 10月	神学科通信教育を終了
1961年	西南聖書学院開設
1963年	干隈校地に第二神学寮竣工
1966年	文学部神学科が廃止され、神学部神学科及び神学専攻科設置

1970年 2月	神学館増設 神学校問題協議会開催
4月	『バプテスト』第179号に「連盟結成以降における神学校の歩 みと評価及び課題」が掲載される
5月	神学校問題協議会に対し、神学部教授会の統一見解を発表
6月	神学部教授会の統一見解の補足を発表
7月	神学部学生自治会・西南聖書学院学生から「神学校問題学習 会前期給付」発表
9月	神学部学生自治会、「神学校問題についての全信徒への訴え」発表 神学部学生自治会、学生と教授会の「共同の悔い改め」を求 めてストライキに入る
11月	神学部学生、「スト反対の学部学生の立場から」を『バプテスト』 第186号に発表
1971年 1月	日本バプテスト連盟理事会、大学に71年度神学生募集中止を 要請するも、神学部は募集。神学部授業再開
3月	神学部スト終結
1974年 2月	西南学院理事会と日本バプテスト連盟との間で、「西南学院大学神 学部・西南聖書学院に関する確認書」を取り交わす。また、「西南 学院大学神学部・西南聖書学院運営委員会規定」が制定される
1975年 3月	西南聖書学院廃止
1980年 5月	日本バプテスト連盟全国壮年連合第15回大会、本学で開催
1981年 2月	ミッションデーとして、按手礼問題のシンポジウムを開催
1982年	神学部学生奨学金制度制定
1983年	神学部運営の大学一本化実施
1984年	河合田鶴英学金基金設定
1988年	神学部神学科に「神学コース」、「キリスト教人文学コース」を開設
1990年 11月	神学部「即位の礼」休日に抗議し自主講義を行う
1992年 5月	干隈校地に第三神学寮竣工
1993年 4月	神学部社会人研修制度設置
1995年	干隈キャンパス40周年記念行事
1999年 3月	干隈校地、福岡市への譲渡契約調印
11月	大学開学50周年式典 西南学院大学聖書植物園開設
2000年 10月	神学部移転記念祭開催 神学部移転記念誌『干隈から西新へ—想起と展望—』発行
Ⅳ. 再び西新にて	
2001年 3月 4月	移転に伴い福岡市早良区室見に新神学寮建築 神学部、西新キャンパスに移転 本館Ⅱで神学部チャペル開始
2002年 7月	全国出張による「神学部公開講演会」開始
2003年 11月	神学部独自の指定校推薦入試開始（全国のミッションスクール及び 全国のパプテスト教会から推薦入試受験者を受け）
2004年 5月	アジア・バプテスト連合神学大学院（AGBTS）常任理事会を本学で開催
2005年 2月 4月	「神学部の使命と目的」（ミッション・ステートメント）公表 大学院神学研究科神学専攻修士課程開設
2006年 7月	最後の宣教師L.K. シート教授退職、帰米
2007年 4月 9月 10月	大学院神学研究科神学専攻博士課程開設 大学博物館（ドージャー記念館）で神学部チャペルを開始 大学博物館（ドージャー記念館）でパイオルガン奉献式（記 念演奏会）
2008年 5月 8月	西南学院宣教師記念碑を設置 第43回全国壮年大会と共に神学部建学100周年を祝う（於 本学チャペル） 『神学部建学100周年を祝う— Another Century に向けて—』発行
2010年 4月	「ユダヤ教ラビと守る過越祭のセデル」初開催 アジアバプテスト神学大学院との提携協定を結ぶ
2011年 8月 10月	東日本大震災被災地研修 室見神学寮10周年記念式 丸田圭一君記念奨学金開設
2016年 4月	「西南学院創立百周年に当たっての平和宣言」公表
2019年 5月	神学部主催開催公開シンポジウム「天皇制を考える」
2020年	天野有記念奨学金開設
2021年 5月	大学博物館（ドージャー記念館）の耐震上の問題により神学部チャ ペルが大学チャペルで行われることとなる

本年表は、『神学部報（44-59号）』『干隈から西新へ—想起と展望』『神学部建学100周年を祝う— Another Century に向けて—』『西南学院百年史』を参照し、原田仰が作成した。

西南学院史資料センターアーキビスト 宮川由衣

1923（大正12）年4月に開設された高等学部神学科は、文科、商科と並び高等学部のひとつの学科である一方、日本バプテスト西部組合（以下「西部組合」）の牧師・伝道者養成を担う教派神学校でもあった。世界恐慌が起こるとミッションボードからの援助が激減し、学院は財政難となった。このため、学院はミッションボードからの援助によって授業料を含め全ての経費がまかなわれていた神学科を1934（昭和9）年4月から一時休校することにした。また、神学科の授業を担当していた教師の転出・辞任が相次ぎ、教授陣が不足したこともその原因であった。

神学科の一時休校を受け、学院理事会と西部組合は、伝道者養成のために学院理事会3人、西部組合4人の7人からなる「神学部復興委員会」を設置し、1934年6月から4回にわたって協議を行った。また、西部組合婦人部は、同年10月の総会で、神学科復興の際に女子部設立を要望し、それに係る協力についても申し出た。委員会は同年12月に校舎、開校期、予算、教育方針などの基本大綱を決定した。それを受けて学院は、福岡バプテスト教会牧師下瀬加守（資料1-11参照）に神学科科長を委嘱し、翌1935（昭和10）年4月に神学科を再開した。11日、福岡市地行4番丁の旧宣教師館を仮校舎として、男子5人、女子4人、計9人を迎えて再開後の第1回入学式を行った。女子部は高等学部学則に規定されていなかったため学院は規則改正を検討したが、文部省から認められず、翌1936（昭和11）年4月から女子部を西南女子神学校と改称して存続させた。

独自の神学校を持ちたいと願っていた西部組合は、神学科を教派神学校として独立させるため、1935年4月の第33回年会において、「神学部を西南学院より分離独立せしめる様、西南学院理事会に建議する事」を大多数で可決する。1937（昭和12）年第35回年会では「理想としては分離独立可なるも財力、生徒数、職員組織及び校舎の現状としては独立経営困難、独立の各種学校としては認可困難、分離は時期尚早」として、神学科を現状どおり高等学部に存続さ

せ、自治的に経営することを提案し、承認された。

1937年11月、学院理事会は神学科を学院から分離し、その具体的運営を西部組合理事会に委ねることにした。また、年会は西南女子神学校の帰属については、聖書科または宗教教育科の設置を検討していた西南女学院高等部に併置することを可決した。こうして1938（昭和13）年3月に「西南神学院」が発足する。

その後、1940（昭和15）年1月に日本バプテスト基督教団の結成により、東西の神学校が合同して東京に日本バプテスト神学校が開設されたため、学院は同年4月に高等学部神学科を廃止した。日本バプテスト神学校は男子神学校であったため、同年4月に西南女子神学校は「西南女子神学塾」に改称され、女子神学生は西南保母学院生と一緒に学ぶことになった。

戦後、専門学校教授河野貞幹は、いち早く神学校の必要を痛感し、その実現に尽力する。河野は一般信徒の訓練と伝道者養成が急務であると考え、西南学院バプテスト教会牧師尾崎圭一の協力を得て、西南聖書神学校（夜間3年制）を開設した。このことは多くの人々の強い関心と呼び、学院理事会は専門学校に神学科を再設することを決議した。こうして1947（昭和22）年4月に神学科は西新の旧神学科校舎で学生4人を迎え、再び歩み始めた。



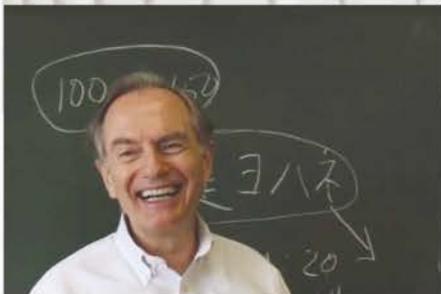
西南女子神学校卒業式（1938年）

1938（昭和13）年／西南学院史資料センター

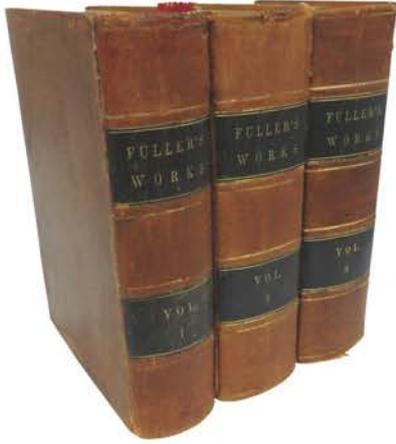
第2章

現在の神学部教育

2000（平成12）年に西新キャンパスへ戻ってきた西南学院大学神学部は、他学部と共に、今日も学生たちの教育を担い続けている。1988（昭和63）年より導入された「神学コース」と「キリスト教人文学コース」の2コース体制は現在も継続しており、神学コースにおいては牧師等になって将来教会に仕える人々を、キリスト教人文学コースにおいてはキリスト教を軸として人文学を幅広く学ばんとする人々を、それぞれ教育している。本章では、西南学院大学神学部で現在教鞭を執られている先生方にご協力いただき、神学部教育に関する資料を紹介する。



金丸英子先生の紹介資料



資料 2-1.

The Complete Works of Andrew Fuller: With a Memoir of His Life

1845年／フィラデルフィア／American Baptist Publication Society／書冊
西南学院大学図書館（北里学園理事長・学園長 古川敬康氏より寄贈）

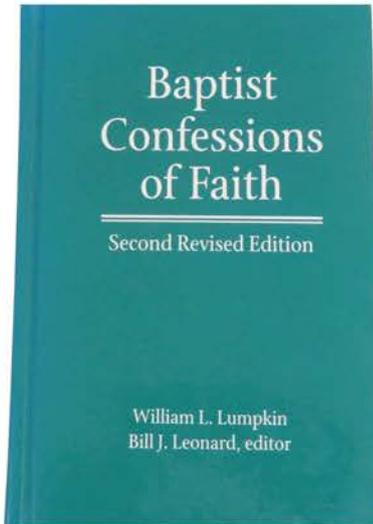
18世紀のイギリス・バプテスト派牧師アンドリュー・フラーの著作や諸論文を集めた全集。フラーは1754年、農夫の家庭に誕生し、独学ながら教養を積んだ後、1783年にケタリングのバプテスト教会の牧師に就任し、終生そこで仕えた。当時のバプテスト派は偏った神学の見解から総じて伝道活動への熱意が低く、海外宣教も例外ではなかった。フラーは、万人はイエスに立ち返り、救われるように招かれているため、情熱を込めて広く福音を語るべきこと、福音の届けられていない世界に出て行くべきことを主張。その熱意は近代海外宣教の父ウィリアム・ケアリとその活動を支えたバプテスト宣教協会（the Baptist Missionary Society, 1792）への献身として結実する。特にアジアにおけるバプテスト派の活動はこの組織抜きでは語れない。本書はそのフラーの、素朴で情熱に満ちた伝道への使命感と敬虔な信仰を伝える。（金丸）

資料 2-2.

William L. Lumpkin and Bill J. Leonard, *Baptist Confessions of Faith, Second Revised Edition*

2011年（1959年初版）／アメリカ／Judson Press／書冊／金丸英子

ウィリアム・ランブキンとビル・レナードは1959年、古今のバプテスト派の主要な告白文、重要な関連信仰告白諸文書を収集・編纂して本書の第1版を出版した。その後、1969年に1度改訂されたが、本書はその改訂版に南部バプテスト連盟の2000年版「バプテストの信仰と使信」（Baptist Faith and Message）、アジア、アフリカ等の教派団体の信仰告白や信仰宣言文を加え、アップデートさせて2011年に再度改訂され、出版されたものである。その任に当たったのは、本学神学部で客員教授として来日したこともあるアメリカ・キリスト教史の重鎮であり、同時にバプテスト史家でもあるビル・レナードである。本書はバプテスト派の主張と視点を知るための基礎重要文献であるため、バプテスト派の牧師のみならず、教派神学校でもある本学神学部で学ぶ学生にとって必携の書である。翻訳は第1版のほとんどが神学部で長年非常勤講師としてバプテスト史を講じた齋藤剛毅氏の手により『資料 バプテストの信仰告白』（1980年）として翻訳・出版され、改訂版が2000年に出版されている。（金丸）

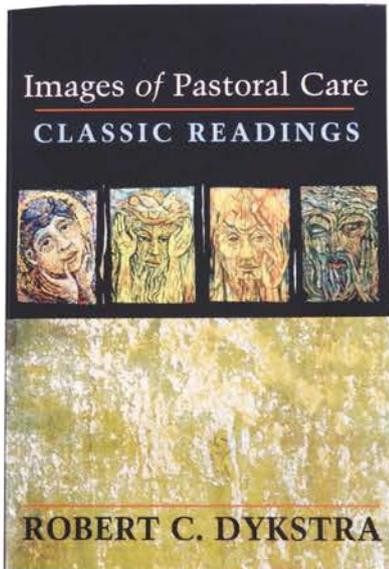


金丸英子（かなまる・えいこ）

本学神学部ならびに神学専攻科修了後、北九州、東京で教会の牧師として働いた後、1989年に米国サザンバプテスト神学校、ベイラー大学大学院へ留学。日本におけるバプテスト受容をテーマに博士論文を執筆して、2000年にベイラー大学大学院より博士号の学位を得て帰国。本学には2008年に赴任。

担当科目は教会史、バプテスト史のほか、2022年度より教理史も担当している。専門領域は教会史、研究分野は西南学院の開設母体であるバプテスト派の誕生と教派としてのアイデンティティ研究である。客観的な資料に基づいたバプテスト像、バプテストの主張の提供を心がけている。西南学院史資料センターの働きにも参加し、学院資料の収集・保存・公開を通して学院史の歴史の継承にも努めている。

才藤千津子先生の紹介資料

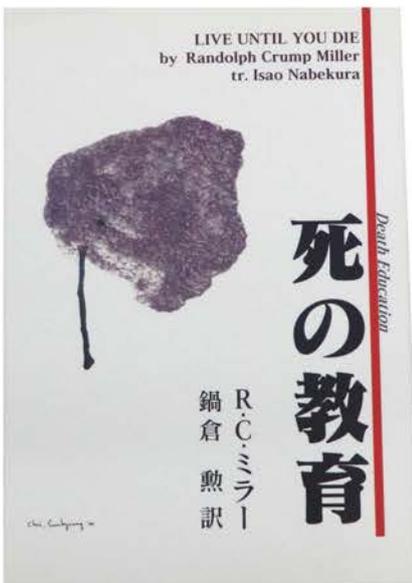


資料 2-3.

Robert C. Dykster ed.,
Images of Pastoral Care: Classic Readings

2005年/ミズーリ/Chalice Press/書冊/才藤千津子

本書は、20世紀以降の牧会神学に影響を与えた19人の牧会神学者の著作を紹介し、解説するものである。この本の編著者ロバート C. ディクストラ（米国、プリンストン神学校牧会神学教授）は、「傷ついた癒し人」（ナウエン）、「賢い愚か者」（キャップス）など様々なメタファーを通して、現代牧会学の全体像を紹介しようとしている。才藤が担当する神学研究科博士課程前期の「牧会心理学特論Ⅰ」では、本年度（2022年度）、この本をテキストとして用いた。（才藤）



資料 2-4.

R・C・ミラー 『死の教育』

1995（平成7）年/東京/ヨルダン社/書冊/才藤千津子

死の教育について日本で最も初期に学術論文を著した研究者の一人は、日本バプテスト連盟の牧師であり、西南学院大学神学部講師（当時）の鍋倉勲である。（鍋倉勲「ランドルフ C. ミラーの死の教育について—生涯教育の視点から」『西南学院大学神学論集』38(2) 95-104、1981年）彼の出発点は、欧米における死の教育の先駆者のひとり、キリスト教教育学者ミラーが著したこの本であった。才藤も、若者を対象にした大学での「死の教育」の重要性を認識し、すでに10年以上キリスト教教育の一環としての死の教育を授業で実践している。（才藤）



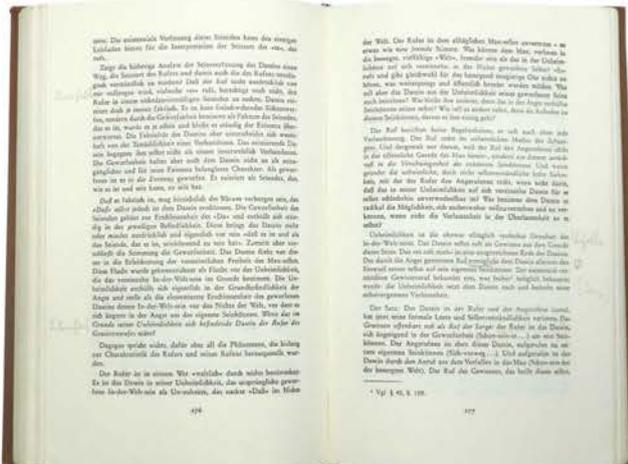
才藤千津子（さいとう・ちづこ）

同志社大学大学院神学研究科博士前期 修士（神学）、米国アンドヴァー・ニュートン神学校 M.A.(Psychology and Religion) 修了を経て、米国 Graduate Theological Union Ph.D. 修了（2002年）。その後、米国カルフォルニア・パシフィック医療センターチャプレン・レジデント、新島学園短期大学助教授・准教授、同志社女子大学准教授・教授を経て、2018年より西南学院大学教授（現在に至る）。

専門は、実践神学、牧会学、パストラルケア&カウンセリング、特に、グループとパストラルケア、教会とハラスメントなど。西南学院大学神学部では「実践神学概論」「宗教心理学」「牧会学」「カウンセリング」「宗教科指導法」、大学院では「牧会心理学特論」「神学演習」などを担当している。日本バプテスト連盟平尾バプテスト教会協力牧師。

論文 Chizuko Saito, Bereavement and Meaning Reconstruction among Japanese Immigrant Widows, *Pastoral Psychology*, 2014, 63(1)39-55 他。

濱野道雄先生の紹介資料



資料 2-5.

Martin Heidegger, *Sein und Zeit*

1979年 / テュービンゲン / Max Niemeyer / 書冊 / 濱野道雄

ドイツの哲学者、マルティン・ハイデッガーの『存在と時間』。神学を学ぶ前に、学部と大学院修士課程において学んだ、「神なき神学」とも呼ばれる哲学書。存在 (Sein) と存在者 (Seiende) の「同一性と差異の共属性」を分析するハイデッガー哲学が、神の世界と人の世界の関係について与える示唆は大きい。「不安の情調を帯びた呼び声は、現存在がひとごとではない自己の存在可能へみずから投企することを、はじめて可能にする。」(細谷貞雄訳)との文に線が引いてある。キリスト者が、教会が、「神の民」といかに呼ばれ得るか、思索の原点。(濱野)

dieses Seins. Das »es ruft mich« ist eine ausgezeichnete Rede des Daseins. Der durch die Angst gestimmte Ruf ermöglicht dem Dasein allererst den Entwurf seiner selbst auf sein eigenes Seinkönnen. Der existenzial ver-

部分拡大図

資料 2-6.

教会調査票

2006年 (ファイル)、2013年 (調査票) / 日本 / 濱野道雄
調査票 (39枚)、ファイル (3冊) / 濱野道雄



Pacific School of Religion (アメリカ、カリフォルニア州バークレー) に提出した牧教会学博士論文『A Model for Congregational Evaluation in the Japan Baptist Convention (日本バプテスト連盟における教会評価のモデル)』2007、執筆のための教会調査票。および現在も務める日本バプテスト連盟東日本大震災被災地支援委員会の調査・支援活動のための教会調査票。見えない神の世界は、しかし見える世界で教会やキリスト者の生き方となり、何ほどこ実際に世界を変えていく。その実相を探るべく、博士論文では諸教会を訪問し、アンケートやインタビューによる社会学的質的調査も行った。また2011年に東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故が起こって以来、福島の前教会にサーベイメーターを手に訪問し、支援と共に教会調査を続けている。(濱野)



濱野道雄 (はまの・みちお)

1965年広島生。上智大学・大学院で現代ドイツ哲学を学ぶ。西南学院大学神学部に転入。南光台教会 (仙台市) で牧師を務めた後、ドイツ・ハイデルベルク大学で新約学、アメリカ・Pacific School of Religion で実践神学を学ぶ。日本バプテスト連盟宣教研究所という牧師のセンターで勤務し、教会現場と神学理論をつなぐ働きを13年間行う。2013年より本学教員。現在、神学部教授。日本バプテスト連盟 鳥栖キリスト教会協力牧師。

担当科目は幅広く、新約聖書学、組織神学 (キリスト教倫理)、実践神学 (教会形成論) 等。神学の4分野 (聖書、歴史、組織、実践) に捉われない研究を目指してはいるが、哲学を学んだ始まりから一貫して、見えない世界と見える世界、理想的社会と現実の社会、神の世界と人の世界の関係について考え続けているとも言える。被爆2世であり、「原子力とキリスト教」等の講義も行い、現実のただ中での平和 (シャローム) の生き方を学生たちと共に模索したいと願っている。訳書に H.C. キー著『イエスについて何を知りうるか』(新教出版社)、著書に『教会のマネジメント』等。

日原広志先生の紹介資料



表紙「תורה נביאים וכתובים」 表紙ヘブライ語

資料 2-7.
Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)
 1990年/シュトゥットガルト/ドイツ聖書協会/書冊
 日原広志

ピブリア・ヘブライカ・シュトゥットガルトンシアは、日本語訳の旧約聖書の原典にあたるヘブライ語聖書で、頭文字を取って「BHS」と呼ばれます。これは、旧約聖書全書を完備する現存最古の写本であるレニングラード写本 B19A (1008/9年) を底本としており、伝承 (マソラ) 本文の他に、横の欄外マソラ・パルヴァ、下の欄外 (上段) マソラ・マグナが本文の正誤やコンコルダンス情報を提供します。また下の欄外 (下段) には脚注 (アパラタス) が付され、ヘブライ語写本や古代語訳の異読情報、読み替え提案や指示が掲載されています。表紙のヘブライ語は「トラー ーネヴィーイーム ウー・ケトゥーヴィーム」(律法、預言書、諸書) と書かれていますが、これがヘブライ語聖書の書名にあたります。(日原)



資料 2-8.
契約の箱
 現代/イスラエル/Amy/金属製/日原広志

クラスでは旧約聖書に関連した視覚的教材 (鉱物、香料、宗教的アイテム等) を回覧し、五感で聖書的世界に理解と関心を深める一助としています。これはその一つで「契約の箱」(聖書中の記載は「神の箱」「証しの箱」など様々) です。出エジプト記 25 章 10-22 節には素材・寸法・製造法についての詳細な指示が記されています。中には十戒の二枚の石板 (出 40:20、申 10:2)、アロンの杖 (民 17:25)、荒れ野のマナ (出 16:33-34) が収められていたといわれています。この展示品では、贖いの座のケレビムは半人半獣の姿ではなく一般的な幼子の天使のイメージです。また箱の中には歴代誌下 5 章 10 節に従い二枚の石板だけが入っています。(日原)

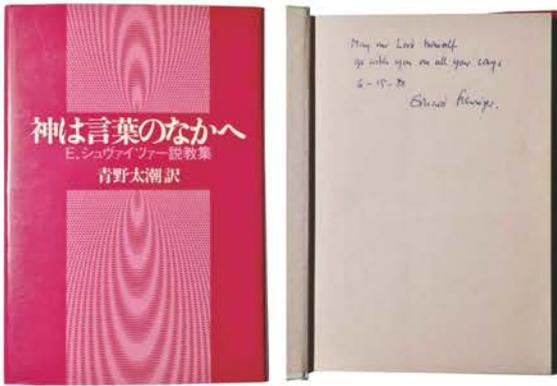


日原広志 (ひはら・ひろし)

2000年西南学院大学神学専攻科修了。5年間の教会(日本バプテスト福岡城西キリスト教会牧師)の後、同大学院神学研究科へ進学。小林洋一先生の下で旧約聖書を専攻。2007年修士課程修了。2010年博士課程単位取得満期退学。2016年に博士論文「第一イザヤにおける聖・義・知恵」で博士(神学)号。2012年神学部講師。2013年准教授。担当科目は「旧約概論A/B」「ヘブライ語I/II」「旧約釈義A/B/C/D」「演習A/B/C/D」、大学院「旧約学特論I/II」。他に神学部出張公開講座「イザヤ書研究」、西南学院大学公開講座「自然災害とキリスト教信仰」(2012年)、「宗教と平和」(2016年)、「コロナ時代に神学は何を語るか」(2021年)(いずれも「旧約学の立場から」)。

「聖書には必要なものがすべて詰まっている。求道者、来会者、教会員が真に教会に求めているものは、その他の大切なあらゆることではなく、神の言葉である。聖書本文に集中することの、人間理解、社会洞察、説教・教会形成に資する意味について分かち合うことができれば幸いである」(旧約釈義シラバスより)

須藤伊知郎先生の紹介資料



資料 2-9.

『神は言葉のなかへ E. シュヴァイツァー説教集』

1980 (昭和 55) 年 / 東京 / ヨルダン社 / 書冊 / 須藤伊知郎

これは青野太潮神学部名誉教授によるその師エドゥアルト・シュヴァイツァーの説教集の日本語訳である。『神は言葉のなかへ』ヨルダン社、1980年(原著 E. Schweizer, *Gott will zu Worte kommen*, München 1978)。来日中のシュヴァイツァー師が常盤台バプテスト教会を訪れて説教をした際に、同行して通訳を務められた青野教授が須藤を新約聖書学を志していると紹介すると、「それは素晴らしい! しっかりやってください」と大いに喜ばれ、この著書に「私たちの主ご自身があなたの行く道すべてに伴われますように」と言葉を添えてサインを下された。(須藤)



資料 2-10.

Jürgen Roloff, *Neues Testament*, 3. Aufl.

1982年(1977年初版) / ノイキルヒェン=フリューン

Neukirchener Arbeitsbücher / 書冊 / 須藤伊知郎

上は1990年にドイツのエアランゲン・ニュルンベルク大学神学部に留学した際、最初に指導教授のユルゲン・ロロフ先生の研究室を訪ねた時にいただいた、ノイキルヒェン出版社ワークブックシリーズ『新約聖書』(Jürgen Roloff, *Neues Testament*, Neukirchener Arbeitsbücher, 3. Aufl. 1982)。このうちの何章かは神学部の「新約神学」の授業で取り上げたことがある。

下は地元紙 *Erlanger Nachrichten* 『エアランゲン報』の1996年3月1日付の記事の切り抜き。この中でロロフ先生はキリスト教とユダヤ教の関係について「諸教会の中でこれまで保持されてきた偏見を取り除くこと」を求め、「私たちはもはやユダヤ教をその前でキリスト教が輝く暗い背景として描いてはならない」と発言している。顔写真のキャプションには「ユダヤ教はキリスト教の根である」とある。(須藤)



須藤伊知郎(すどう・いちろう)

1958年福岡に生まれる。1993年エアランゲン・ニュルンベルク大学神学部卒業資格認定、1995年東京大学大学院人文科学研究科西洋古典学博士課程単位取得退学。1998年より神学部教員。2007年度後期～2008年度前期ベルン大学、2017年度後期ハイデルベルク大学研究滞在。専門分野は、新約聖書学、特にマタイ福音書研究。担当科目は「新約釈義」「新約神学」「新約原典」、大学院「新約学特論」など。釈義系の科目では解釈の結果を踏まえて宣教の課題を考え、説教につなげることを意識している。「新約神学」では聖書本文を歴史的社会的な背景に照らして読み解くとともに、現代の状況への問いかけを聴き取るように心がけている。

主な著書、訳書に『新約聖書解釈の手引き』(共著、日本キリスト教団出版局2016年)、『ここが変わった! 聖書協会共同訳新約編』(共著、同出版局2021年)、フェルディナント・ハーン『新約聖書神学Ⅰ下』(同出版局2007年)。

西南学院大学博物館学芸調査員 栗田りな
西南学院大学博物館教員 下園知弥

西南学院大学博物館のコレクションには「関谷コレクション」と呼ばれるものがある。これは元神学部教授で聖書考古学を専門とされていた関谷定夫先生（1925-2017）によって2014年12月に博物館へ一括寄贈されたものである。当該コレクションには、イスラエル（パレスチナ）地域より出土した古代のランプや貨幣など歴史的価値を含む遺物のほか、近現代のユダヤ教の祭具などが含まれており、その数は約200点にも上る。これらの資料の多くは、ユダヤの文化を知る上で非常に有益な実物資料であるため、大学博物館の展示を通じて、神学部のみならず他学部の学生・教職員・市民の教育にも活用されている。

多様な資料によって構成されている関谷コレクションであるが、その中心的位置を占める資料はジュダイカ（Judaica）である。ジュダイカとは、ユダヤの祝祭や儀礼で使用されるものであり、ユダヤの美術を含むユダヤ文物全般を指す。ユダヤの人々は時代によってさまざまな地域に移住しており、それによって多様性が生まれたため、様々な素材・形態のジュダイカが存在している。以下に紹介するのは関谷コレクションのジュダイカであり、過去に『西南学院大学博物館ニュース』でも特集したことのある資料である（vol. 31、vol. 35、vol. 43）。

ハヌキヤ ユダヤ教の神殿奉納祭（ハヌカ）の際に用いられる9枝の燭台。ハヌカとは、ユダヤ暦のキズレヴ月〔西暦の12月ごろ〕に8日間行われる祭りであり、初日にはハヌキヤの火種と1本目に火が灯され、それから1日に1枝ずつ、8日目には全てに火が灯される。下図はケテル（冠）を頂いた十戒を一对の獅子が守るように配されている。



左：ハヌキヤ 19世紀／エルサレム／製作者不詳／青銅製／西南学院大学博物館



中：スパイス・タワー 20世紀か／イスラエル／ベツァレル美術学校／木製／西南学院大学博物館



右：テフィリン 20世紀か／製作地不詳／製作者不詳／プラスチック製（箱）、革、羊皮紙／西南学院大学博物館

スパイス・タワー ユダヤ教徒によって行われる安息日（Shabbat）を見送るための「別れの儀式（Haudalah）」で用いられる、香料用の容器。装飾が施された塔の形をしたものが一般的だが、容器の形に制約はなく、花や果実の形をしたものもある。下図は関谷先生がイスラエルのベツァレル美術学校で購入したものである。

テフィリン ベルト付きの聖句箱。名称は「祈り」を意味するヘブライ語「テフィラー」に由来し、箱の中には聖句が記された紙片（羊皮紙）が入っている。ユダヤ教の伝統において、13歳の成人式（バル・ミツヴァ）を終えたユダヤの成人男子は、平日の朝の祈禱時にこれを身に着ける。「頭のテフィリン」と「手のテフィリン」の二つがあり、これらが一緒に用いられる。

関谷コレクションは、ヘブライ語聖書（旧約聖書）を基礎に社会形成を行ってきたユダヤ人の思想と共同体形成を理解する上でも、聖書それ自体を理解する上でも、欠かすことのできない宗教的な象徴物を数多く含んでいる。また、唯一神信仰を共有するキリスト教やイスラームの宗教儀礼・宗教思想と比較することのできる資料も含まれている。したがって、神学部教育にも、一般的な宗教教育にも、大変有意義なコレクションであると言えよう。しかしながら、関谷コレクションはその全体が博物館職員によって調査されているわけではなく、未整理資料・未公開資料も多数存在するため、関谷コレクションを余すことなく活用していくには今後更なる資料調査・整理が必要である。

キリスト教人文学コースの記憶

西南学院大学博物館教員 下園知弥

今回、「学院史のなかの神学部」展を企画し、そのための資料調査をしていて気づいたのは、神学部の歴史に関する資料は当初想定していた以上に学院に残されていた、という事実である。実際、この図録に収録している展覧会出品資料は、神学部の歴史の僅かな一面にしか触れておらず、此处では扱いきれなかった多くの資料が西南学院史資料センターには保管されている。これらの資料を別の機会に紹介するのも、学院に勤める学芸員・アーキビストの使命だと考えている。

その一方で、神学部の個々のテーマについて言えば、当初想定していたよりも資料に乏しかった主題もあった。そのうちの一つは「キリスト教人文学コース」に関する資料である。西南学院大学神学部は1988（昭和63）年に「神学コース」と「キリスト教人文学コース」の2コース体制を開始しており、この体制は現在まで続いている。神学コースは従来の教会の奉仕者を養成するコースであったため、キリスト教人文学コースというカリキュラムが新たに設けられたかたちである。その設置の狙いについて、『西南学院百年史』には次のように書かれている。

1988年4月、神学部は、従来の伝道者養成を「神学コース」とし、新たに、キリスト教を基盤としながら広く哲学、思想、芸術などを学ぶ「キリスト教人文学コース」を併設した。そこには、定員を満たすことにより、学院と連盟両者の財政的負担の軽減を図る意図もあった。

『西南学院百年史 通史編』263頁

上記のような目的で設置されたキリスト教人文学コース（以下、人文学コース）であるが、その後は神学部内でどのような発展を遂げたのだろうか。また、人文学コース生は神学コース生とどのような関係を築いているのか。その卒業生たちは現在キリスト教とどのように関わっているのか。このような問いに答える資料が、現状ほとんど残されていないのである。

設置から30年あまりが過ぎた現在、人文学コースという存在も歴史的に振り返るタイミングが近づいているように思われるが、この資料の乏しさは、今後学院史を編纂する際の課題となるように思われる。

そのようなわけで、本解説では、人文学コースに関する一記録資料として、当該コースの卒業生である私の記憶を少しく記しておきたいと思う。

非キリスト者であった私が人文学コース生として神学部に入學したのは2009（平成21）年のことである。当初私は、宗教学を学ぶような心持ちで神学部に入學し、その学部の持つ空気の異質さに驚いた。というのは、人文学コースの入學に信仰の有無は問われなかったが、そのコースの属している神学部が

信仰者の文化によって形成されており、人文学コースの学生もその文化と交わる必要があったからである。例を挙げると、授業前のお祈りや神学部チャペルなどである。もちろん、それらの信仰活動への参加は強制ではなかったが、それが在ということ自体、私にとっては非日常の体験であり、このような「神学部文化」との接触がキリスト教との本当の出会いであったように思う。

神学部の先生方や同期の神学コース生とは、在学中にたくさんの交流があった。今でもよく覚えているのは、入學後最初の懇親会で青野太潮先生が「私の名前も海と関係があるんですよ」（私が以前東京海洋大学に通っていたことに対して）と話しかけてくださったこと、小林洋一先生が「アブラハムは、油とハムからなっている、と覚えると覚えやすいですよ」という豆知識を披露してくださったことである。

神学コース生の中で私が最も話をしたのは、おそらく同期の故田宮宏介先生だと思う。田宮さん（私にとって田宮先生は、牧師であるよりも神学部の同期であったため、神学部時代の呼び方で記させていただく）は、神学部ではトマス・ミュンツァーの研究をしており、私と同じく片山寛先生の指導を受けていた。そのような縁があっただけで、田宮さんは私にもたくさん話しかけてくださり、人生の先輩として、キリスト教の先輩として、多くのことを教えてくださった。

田宮さんの訃報を知ったのは昨年10月のことである。その「お別れの会」の資料が今私の手元にある。その資料で初めて知ったのは、田宮さんが「NPO法人おとむらい牧師隊」という生活困窮世帯の葬儀のために牧師を派遣する法人でボランティア牧師を勤めていたことである。思い当たることはあった。数年前、田宮さんが突然大学博物館を訪ねてきて、「いまキリスト教の葬儀の歴史について調べているんですよ。なにか資料とかご存知ないでしょうか」と尋ねられたことがあった。田宮さんは研究と実践の両面から奉仕活動に全力で取り組んでいたのだ。

学生時代、神学コース生たちの伝道者になるという熱意、その確たる将来の展望に、私は羨ましさを感じることもあった。同じ神学部でも卒業後は全く異なる道を歩むのだろう、と。しかし卒業してから10年近く経って、田宮さんとの縁を振り返りながら感じているのは、卒業後も神学コースと人文学コースの道は交じり合っている、ということである。道は異なれど、私たちは何らかのかたちでキリスト教と関わっており、ふとした拍子に再会することだってあるのだ。そんな神学部の縁とても言うべきものが、人文学コースで私が得た最大の賜物であるのかもしれない。

「学院史のなかの神学部—成立と歩み、そして現在—」 出品目録

番号	資料名	制作・出版年/制作・出版地/制作者・出版社/素材・形態	法量(縦×横 cm) 器物は(縦×横×高 cm)	所蔵
第1章 神学部の成立と歩み				
1-1	H. A. Tupper, <i>The Foreign Missions of Southern Baptist Convention</i>	1880年/ヴァージニア Foreign Mission Board of the Southern Baptist Convention / 書冊	23.4 × 16.0	西南学院大学図書館 (ドージャー文庫)
1-2	H. A. Tupper, <i>A Decade of Foreign Missions 1880-1890</i>	1891年/ヴァージニア Foreign Mission Board of the Southern Baptist Convention / 書冊	22.9 × 16.0	西南学院大学図書館 (ドージャー文庫)
1-3	高橋権雄編「日本バプテスト史略」(上・下)	上巻:1923(大正12)、下巻:28(昭和3)年/東京/東京三崎会館 書冊(全2巻)	各巻19.2 × 13.3	西南学院大学図書館
1-4	千葉勇五郎「世界バプテスト略史」	1932(昭和7)年/東京/東京新生館/書冊	18.7 × 12.7	西南学院大学図書館
1-5	Everett Gill, <i>A. T. Robertson: A Biography</i>	1943年/ニューヨーク/Macmillan / 書冊	20.9 × 14.5	須藤伊知郎
1-6	バプテスト神学校卒業証書	1901(明治34)年/横浜/紙/バプテスト神学校	40.0 × 52.2	西南学院史資料センター
1-7	私立西南学院設立認可書 *パネル展示	1916(大正5)年/福岡/福岡県/紙	25.7 × 18.2	西南学院史資料センター
1-8	神学部予算書(大正12~昭和10年度)	1923(大正12)~1935(昭和10)年/福岡/西南学院/冊子	24.4 × 18.8	西南学院史資料センター
1-9	神学部図書原簿	1923(大正12)~1934(昭和9)年/福岡/西南学院/書冊	34.0 × 23.4	西南学院史資料センター
1-10	神学生募集ポスター	1935(昭和10)年/福岡/西南学院/紙	36.1 × 26.4	西南学院史資料センター
1-11	神学館の表札	1955(昭和30)年/福岡/下瀬加守/木製	30.0 × 60.5 × 3.0	西南学院史資料センター
1-12	「ケリグマ」創刊号	1954(昭和29)年/福岡/西南牧羊会/小冊子	26.5 × 20.0	西南学院史資料センター
1-13	「道」創刊号	1975(昭和50)年/福岡/西南大神学部学生会/小冊子	25.7 × 18.2	西南学院史資料センター
1-14	神学校問題の証拠スクラップ	1969(昭和44)~1971(昭和46)年/福岡/西南学院/スクラップブック	42.0 × 31.5	西南学院史資料センター
1-15	「西南学院大学神学部移転記念誌 千隈から西新へ 想起と展望」	2000(平成12)年/福岡/西南学院大学神学部移転記念祭実行委員会 小冊子	25.7 × 18.2	西南学院史資料センター
1-16	「神学部建学100周年を祝う—Another Centuryに向けて—」	2008(平成20)年/福岡/西南学院大学神学部/小冊子	25.7 × 18.2	西南学院史資料センター
第2章 現在の神学部教育				
2-1	<i>The Complete Works of Andrew Fuller: With a Memoir of His Life</i>	1845年/フィラデルフィア/American Baptist Publication Society 書冊(全3巻)	各巻23.5 × 16.0	西南学院大学図書館
2-2	William L. Lumpkin and Bill J. Leonard, <i>Baptist Confessions of Faith, Second Revised Edition</i>	2011年(1959年初版)/アメリカ/Judson Press / 書冊	22.4 × 14.5	金丸英子
2-3	Robert C. Dykster ed., <i>Images of Pastoral Care: Classic Readings</i>	2005年/ミズーリ/Chalice Press / 書冊	22.9 × 15.2	才藤千津子
2-4	R・C・ミラー「死の教育」	1995(平成7)年/東京/ヨルダン社/書冊	18.9 × 13.0	才藤千津子
2-5	Martin Heidegger, <i>Sein und Zeit</i>	1979年/チュービンゲン/Max Niemeyer / 書冊	22.4 × 14.6	濱野道雄
2-6	教会調査票	2006年(ファイル)、2013年(調査票)/日本/濱野道雄/調査票(39枚)、ファイル(3冊)	[調査票] 29.7 × 21.0 [ファイル] 各30.5 × 23.0	濱野道雄
2-7	<i>Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)</i>	1990年/シュトゥットガルト/ドイツ聖書協会/書冊	24.0 × 16.0	日原広志
2-8	契約の箱	現代/イスラエル/Army/金属製	17.0 × 7.5 × 16.0	日原広志
2-9	「神は言葉のなかへ E. シュヴァイツァー説教集」	1980(昭和55)年/東京/ヨルダン社/書冊	19.4 × 13.5	須藤伊知郎
2-10	Jürgen Roloff, <i>Neues Testament, 3. Auf.</i>	1982年(1977年初版)/ノイキルヒェン=フリュン Neukirchener Arbeitsbücher / 書冊	22.0 × 14.6	須藤伊知郎

2022年度西南学院大学博物館・西南学院史資料センター連携企画展
学院史のなかの神学部—成立と歩み、そして現在—

編 集 下園 知弥(西南学院大学博物館教員)
宮川 由衣(西南学院史資料センターアーキビスト)
編集補助 栗田 りな(西南学院大学博物館学芸調査員)
原田 仰(西南学院史資料センター臨時職員)
発 行 西南学院大学博物館 西南学院史資料センター
〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号
TEL 092-823-4785(西南学院大学博物館)
092-823-3248(西南学院史資料センター)
発 行 日 2023年3月1日
印 刷 株式会社 インテックス福岡

表 紙: 神学館の表札
裏表紙: 神学生募集ポスター

正誤表

- | | |
|---------------------|--|
| 5 頁 資料 1-5 解説 10 行目 | (誤) エドワード
(正) エドウィン |
| 5 頁 資料 1-5 解説 11 行目 | (誤) あなたの訓育のために。
(正) あなたが靈感を受けるために。 |
| 5 頁 資料 1-6 解説 7 行目 | (誤) 神学校校長パーシュレー
(正) 神学校教授(のちに校長に就任した)パーシュレー |
| 17 頁 解説(章の見出し) | (誤) 2000(平成 12)年に西新キャンパスへ戻ってきた
(正) 2001(平成 13)年に西新キャンパスへ戻ってきた |
| 18 頁 資料 2-1 資料データ | (誤) 北里学園理事長・学園長 古川敬康氏より寄贈
(正) 北星学園理事長・学園長 古川敬康氏より寄贈 |

申込四月四日限

始業 四月八日



西南学院神学部・会校照

神學生名簿集

男子部 本科 各若干名
豫科

女子部 若干名

外に一、聴講生の制もあり
二、補助の特典もあり

詳細は規則書照合

福岡市地行西町四番丁二九八
西南学院高等学部神学科

電話一七七八番